

子ども臨床特論Ⅲ

| 評価項目 | S | A | B | C | D |
|--|---|--|--|---|----------------------------------|
| (1) 児童発達支援とインクルーシブ保育の歴史と制度について理解し説明できる(A-1) | 歴史的背景や理念、制度について深く理解し、独自の分析を加え明確かつ詳細に課題を作成することができる。 | 歴史的背景や理念、制度について十分に理解し、専門用語を適切に用いて課題を作成することができる。 | 歴史的背景や理念、制度について基礎的な知見を用いて、課題を作成することができる。 | 歴史的背景や理念、制度について基礎的な知見に あまい点があるものの、課題を作成することができる。 | 教員のアドバイスがあっても自発的に課題を作成できない。 |
| (2) 各障害に応じた幼児のアセスメントと基本的支援について理解し説明できる(A-1) | アセスメントと支援方法について、先行研究から得られた知見を的確に分析し、独自の分析を加え明確かつ詳細に課題を作成することができる。 | アセスメントと支援方法について、先行研究から得られた知見について、専門用語を適切に用いて課題を作成することができる。 | アセスメントと支援方法について、基礎的な知見を用いて、課題を作成することができる。 | アセスメントと支援方法について基礎的な知見に あまい点があるものの、課題を作成することができる。 | 教員のアドバイスがあっても自発的に課題を作成できない。 |
| (3) 支援事例について、子どもの発達や特性、人的・物的環境を踏まえた支援を考えることが出来る(A-1) | 保育事例を綿密に分析し、子どもの発達や特性、環境要因を十分に考慮し、個に応じた適切な支援策を提案できる。 | 保育事例を適切に分析し、子どもの発達や特性、環境要因を考慮し、個に応じた支援策を考えることができる。 | 保育事例をある程度分析し、子どもの発達や特性、環境要因を考慮し、一般的な支援策を考えることができる。 | 保育事例の分析にあまい点があるものの、支援策を部分的に考えることができる。 | 教員のアドバイスがあっても自発的に支援策を考えることができない。 |